

一般社団法人 高山市文化協会の めざすもの



一般社団法人 高山市文化協会

会長 小林 浩

引き続き推進しなければなりません。

また文化活動の拠点である市民文化会館は、築後三十年を経過しています。

戦後間もない昭和二十四年二月「高山市文化協会」が設立され、以来六十四年、幾つかの大きな転機を乗り越え、本年四月「一般社団法人 高山市文化協会」と改正し、社会的な地位を更に確立するとともに、その基盤も確固たるものとなつてまいりました。この長い歴史と経験を重ねてきた高山市文化協会は、飛騨高山の地元に息づいた伝統文化と、新しい文化を融合させ、更に発展させるべく事業を展開してまいります。

それとともに顕著な普遍的価値をもった文化財、飛騨匠の技の結晶ともいえる「高山祭りと屋台行事」を、ユネスコ無形遺産に登録する活動を引

き進めてまいります。高山市内には、中央や郷土において、優れた業績を残された文学者、芸術家が多数おられます。そうした方々の功績を紹介し顕彰することも、当協会の責務であり、文化性の高さを示す重要な事業と考えています。

今年高山市は「飛騨高山文化芸術祭」こだま〜れ

(一社)高山市文化協会 新役員



2013」として、三年に一度のイベントを開催中です。将来、高山市に質とともに品

格の高い文化が定着するために、当協会はこの事業を積極的に支援していきます。

そのほか、市民の皆様の身近な文化協会であるために、各層からのご意見をお聞きし、高山市の文化振興に今何が必要なのかを、真剣に考えてまいります。

この度の改選期にあたり、今日の高山市文化協会を築き

育てられた歴代会長の後、浅学菲才の不肖私が高山市文化協会会長という重責を担うこととなりました。会員を始めとする市民の皆様のご理解を得ながら、更に充実した「一般社団法人 高山市文化協会」へと発展させてまいりたいと考えています。どうかご理解とご協力をいただきますようお願い申し上げます。

▼会長 小林浩

▼副会長 河渡正暁、平川治、北野興策

▼理事 銅島大衍、櫻井哲、泉孝一、尾崎和廣、北平真由美、小瀬勝亮、洲岬孝雄、鈴木栄子、谷口津弥子、寺地勇雄、日野貢

▼監事 京極範子、田中豊一

▼評議員 鍋島道雄、水谷幸子、中村重信、野畑国久、加藤妙子、殿垣幸子、澤木正子、小林伸子、元田勉、中田真理、中田裕一、谷口裕和、大門孝蔵、下畑華照、下仲幸子、浅野晶子、中林利数、安藤桂、堀口潤子、石原里実、直井隆義、和仁智美、松井修、谷口将騎 (順不同)

文化フォーラム2013 芸能と文化展 開催

今年も歌会始の勅題「立」をテーマに「高山文化フォーラム2013」を開催します。

芸能と文化展の二部門で、各団体が一年間の成果を発表します。高山の文化の底力を感じることの出来る催しです。お誘いあわせの上、お出かけください。

芸能の部

第一部 文化会館小ホール

日時 六月一日(土)午後六時～長唄、民謡、舞踊、邦楽など



日本舞踊 若柳臣流 久美華会



高山陣屋太鼓

第二部 文化会館大ホール

日時 六月二日(日)午後一時～邦楽、洋楽、モダンバレエなど

文化展

文化会館 各展示会場にて

日時 六月一日(土)

午前九時三十分～午後五時

六月二日(日)

午前九時三十分～午後四時

写真、木版画、書道、生花、フラワーアレンジメント、盆栽、飾物、和装、人形、俳句、短歌など

(一) 社高山市文化協会加盟団体

文化協後援 催事のお知らせ

「池坊斐太支部 いけばな池坊展」

「花：夢と希望をのせて」

日時 六月十五日(土)・十六日(日) 午前十時～午後五時

場所 文化会館三階講堂

「飛騨吟剣詩舞連合会発表会」

日時 六月十五日(土)

午前九時三十分～

場所 文化会館小ホール

「飛騨高山・日本の太鼓頂上響演」(主催 童心)

日時 六月十六日(日)

午後一時～

場所 飛騨センター

「光記念館 展示案内」

「能と世界の仮面展」

日時 六月十三日(木)

九月八日(日)

「飛騨地方の火山展」

日時 十二月十日(火)まで

開催中

高山市文化芸術鑑賞事業 飛騨高山文化芸術祭こども〜れ2013

リスト音楽院マスターコンサート'13こくふ

Liszt Ferenc Zeneművészeti Egyetem



●出演

ファルヴァイ・シャーンドール
(リスト音楽院教授、ピアノ)

オンツァイ・チャバ
(リスト音楽院教授、チェロ)

サバディ・ヴィルモシュ
(リスト音楽院准教授、ヴァイオリン)

●共演

岩崎由佳
(リスト音楽院デプロマコース修了、ピアノ)

【プログラム】

ショパン：ピアノソナタ第3番第1楽章
ヴェチェイ：小品集から
フバイ：マズルカ 民謡「バラトンの嵐」のテーマによるチャールダシュ
モーツァルト：ピアノ三重奏曲ハ長調 K.548
ベートーヴェン：ピアノ三重奏曲長調 Op.1-2 他

※曲目を変更する場合があります。

平成25年 **8月2日(金)** 午後7時開演
午後6時30分開場

こくふ交流センター・さくらホール

(高山市国府町広瀬町)

主催/高山市、一般社団法人高山市文化協会
後援/ハンガリー共和国大使館、(財)岐阜県教育文化財団
協賛/日本・リスト音楽院楽友会

チケット (一般) **2,000円** (メセナメイト会員) **1,500円**

全席指定 (ジュニア(18才以下)) **500円** ※未就学児は母子観覧席をご利用ください。(席数限定)

発売日 **6月15日(土)**

メセナメイト先行:午前10時から 一般発売:午後1時から

○インターネット受付 午後1時より

販売所 高山市民文化会館、国府社教窓口(こくふ交流センター2F)
飛騨市文化交流センター

「風目(目)」

かつて高山はフィルム会社にとってドル箱であった。どこを写しても絵になるから、観光客はカメラのシャッターを押しまくる。今でもカメラを持った人でいっぱいだが、一枚パチリの「写真」より、ビデオなどの「映像」の方が多いような気がする。

映像の場合は向かい合う視線といることが大事になる。話している人と聴いている人の視線が同じ方向では、どっちがどっちだか分からなくなる。これを業界用語では「テレコ」と言う。

例えば野球でピッチャーとキャッチャーの視線が同じ方向では、敵味方の区別できない「テレコ」になる。

撮る人の立ち位置が問題になる。難しく言えば、エイゼンシュタインのモンタージュ理論でなことになるが、身近に分かり易い手本がある。落語である。

落語家は首を左に向けるか右に向けるかで、向かい合う二人の人間を同時に演じ分けて見せる。一人二役。

お吉ちゃんや孫の視線を合わせるだけで良い映像になる。何事もお互いにそば向いてはダメ。

〈ガンモン毛筆〉